

極東石油工業（株）
製造部 運輸チームリーダー
中西 健一

1号東京湾基地のある極東石油工業（株）千葉製油所の中西です。
昨年5月11日～13日にかけて行った、1号東京湾基地での大型油回収システム習熟訓練について話させていただきます。

実際の洋上での訓練は12日、13日の両日CAP.シェルセンの指導のもと、基礎訓練レベル-1と言われるユニブームの垂直展張、Jフォーメーション形成、左180度ターン、ユニブーム揚収、トランスレグ投入、回収等の訓練です。
使用した船舶はトランスレグ、ユニブーム、ユニバグ等を搭載した母船としての新日丸（698トン）、ユニブームを展張する曳舟として成田丸（240トン）の2隻であります。

12日、13日両日共、幸いにも天候に恵まれ、風、波は訓練にはさしたる影響を及ぼさない程度でした。

12日午前中はCAP.シェルセン指揮/指導のもと、これらの訓練を行い、12日の午後及び13日は指揮者の訓練も合わせてを行いました。

トランスレグ、ユニブームの個々の操作習熟訓練はもちろんの事ですが、それと共に指揮者としての主たる訓練であります両船をうまく使用して、ユニブームのJフォーメーション形成維持及びJフォーメーションを維持しつつ、左180度ターンの訓練です。うまく油を回収する為には、ユニブームのJフォーメーションをいかにいい型にキープしつつ回転動作等をするかにかかるわけですが、両船のスピードを0.5～1ノットに保ち、またユニブームのクロスブライドループと船体との角度を90度に保ちつつ、左180度ターン頭の中ではそれなりのイメージを描いてはいたのですが、イメージ通りとはいかず、ただ1度目より2度目の方が少し余裕があったのか、スムーズにあったように思います。
トランスレグ、ユニブーム等は、ある程度陸上においても操作訓練はできますが、指揮者については、実際の訓練でないと経験できず貴重な体験でした。

余談ではありますが、13日訓練に熱中のあまりか指定された訓練海域を外れてしまい、訓練海域内に戻るために、今回の訓練計画には入っていなかった、右180度ターンを経験することができました。ちなみに、この右180度ターンというのは基礎訓練レベル-2だそうです。

レベル-2で左ターンより少し高度とのことでしたが、CAP.シェルセンの了トバイスを基にチャレンジさせていただきました。

新日丸、成田丸両船のベテラン船長の卓越した操船技量に助けられ、無事に右ターンを経験できたことに感謝しております。

訓練中に起こったトラブルと申しますと 12 日の訓練ではユニブーム展張時リールドラムとユニブームの隙間にクロスブライドルネットのからみ、船側突起物へのネットの引っかかり及びユニブーム回収時テンションのかけすぎと思われるクロスブライドルロープの切断、13 日の訓練ではトランスレグのスキマー投入しリモコン操作をしようとしたところ本船デッキ上でリモコンのコードの位置が悪かった為かコネクションが何かに強く引かれリモコンの機能が停止し急遽、トランスレグ本体側の操作に切り換えたり等ありました。

又、指揮者とユニブーム、トランスレグ等の各オペレーターとのコミュニケーションはトランシーバーを使用したのですが、今回トランシーバーにイヤホンとかヘッドホンが付いてなかったのでパワーバックの音が大きく、これが障害となり直接オペレーターとのコンタクトは難しくトランシーバーを持つた中継要員が必要であることもわかりました。

訓練を重ねることによって効果を身に付けることはもちろんですが、訓練する中でこのようなトラブル、ハプニングを経験し、それを反省し訓練を繰り返すことによっても効果もあり、いざという時に生かせるのではないかと考えています。

全体を見て今回の総評としては多少の小さなトラブルに見舞われましたが、初めて訓練としては良い出来であったと CAP. シェルセン及び各システムのスーパーバイザーも講評していたと記憶しております。

これからもこういった習熟訓練は必要であり多くの経験者を増していただきたいと思いません。